



恵那市教育研究所 恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市役所 西庁舎4階
https://www.city.ena.lg.jp TEL (0573)26-6850 FAX(0573)26-2155

作品：「たのしい おたのしみかい」
みさとこども園 5歳児 おぐり りくさん

先生は頑張っています



恵那市教育委員
樋田 東洋

教員時代のボヤキ

教員の仕事には他の仕事では感じられない喜びや感動があります。仕事を超え自分自身を成長させるほどの大きなものを与えてくれます。私は教員になって良かったと思っています。とはいっても、教員時代にモヤモヤした思いがなかったわけではありません。それは他の先生も同じで、放課後の職員室でいろいろなことを語り（ボヤキ）合っていたことを思い出します。

- ◇企業や役所なら複数の部署にまたがる仕事を、ほとんど一人でこなしているのに、世の中の人あまりわかってくれない。
- ◇よい学級をつくりよい授業をしても、当たり前のことと思われる。自分や家族を犠牲にして頑張っても、子供から努力を認められ褒められることはほとんどない。
- ◇保護者や地域からの依頼や要求であると、子供の育ちに関係ないと思えることでも無理して取り組まざるを得ない。
- ◇保護者や子供とのトラブルは年度末まで続くことが多く、関係の修復は困難。理不尽さを感じてもトラブル回避を優先せざるを得ない。
- ◇安全や人権に関わることは常に完璧を求められる。当然のこととはいえ、何か問題があると「悪」と決めつけられ、正論で容赦なく徹底的に責め立てられる。

どの仕事にもその仕事特有の難しさや厳しさがありますが、教員にもたくさんあります。多くは職務の特殊性に由来するものですが、教育の根底にある考え方と関係があると思います。現代の教育は子供中心主義の考え方に立っています。教育

の中心に子供を据えることは大切なことです。しかし、一面的で短絡的な子供中心主義は教員を苦しめます。子供は社会的に見れば弱者であり保護されるべき存在です。また未熟であるがゆえに、子供の行為によって教師が困ったり苦しんだりしたとしても子供は責めを受けません。教員はほとんどのことを自分の責任として受け止めるしかないので。

教員の仕事は専門性だけではうまくいきません。特殊性に由来する苦しさを乗り越える努力や忍耐が求められます。頑張ることを前提とした仕事なのです。残念なことに、世の中の人はこのことをよく理解していません。少しでも理解してくれたら、もっと仕事がやりやすくなり、やりがいも感じられるようになると思います。

先生は頑張っています

「教育は人なり」です。教育の中心には子供がいますが、子供は先生がいるからこそ中心にいられるし主役にもなれます。先生が頑張ってくださるからこそ、嫌いな勉強にも向かいます。友達と協力したり助け合ったりもします。根気よく粘り強く頑張るようにもなります。自分だけでなく周りの人のために動くようにもなります。先生の頑張りは、個人の成長だけでなく社会の基盤形成にも寄与しているのです。先生の頑張りがなくて社会は成立しません。専門性をもち職務の特殊性からくる過酷さにも耐えている先生は、社会からもっと敬意を払われ大切にされてしかるべきです。

働き方改革や教員志願者の減少などを受けて、ようやく世の中の人々が教員の仕事の大変さに気付き始めました。でもまだまだです。この流れをもっともっと大きくする必要があります。

教員のリアルな状況を世の中に伝えていく必要もありますが、当事者である先生には無理です。言いにくいことばかりだからです。代弁者が必要だと思います。微力ながら少しでも先生の代弁ができたと思います。

真摯な姿勢で教育に当たっておられる先生方が元気を出してくださいと嬉しいです。

今年度から東濃教育事務所の訪問事業として「道徳教育推進訪問」が始まりました。この訪問では、「道徳教育の目標・重点内容及び育てたい資質・能力を中学校区・義務教育学校内で共有し、9年間を通して、『道徳科』を要とした道徳教育の充実を図る」ことを重点としています。そこで、道徳教育の要である「道徳科」の授業の充実に向けた、「主題構成表のポイントを理解した上での授業づくり」について紹介します。

主題構成表

内容項目 C-(12) 公正・公平、社会正義 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。	内容項目から見た児童の実態 ・ホームルーム等で、多くの児童が仲間とのよさを気付いて、発表することができる。 ・学校生活において、誰とでも分け隔てなく活動できる児童と、固定した仲間とのみ行動を共にし、仲間関係が閉鎖的になっている児童がいる。 ・地域の環境や学校規模の特徴により、仲間関係が固定している。	教材の分析 ・図書係の主人公「ぼく」は、本を貸す際、予約順によりみさきさんに先に貸すか、大の仲よしという理由からしゅんやさんに先に貸すか迷うが、最終的には、公平となるよう順番を守って、みさきさんに貸すことに決める教材である。 ・「みさきさんに内緒で先に貸して。」としゅんやさんに言われた「ぼく」は、先に予約を受け付けたみさきさんに貸すべきだと分かっていたが、自分の仲のよい子を優先してあげたいという気持ちもあり、すぐに返事をすることができなかった。その時の「ぼく」の心の葛藤について十分に共感できるようにしたい。
価値の分析 ・「社会正義」は、人として行すべき道徳を社会に当てるための考え方であり、社会を構成する人々が真実を見極める社会的認識能力を高め、思いやりの心などを育てることである。 ・「公正、公平にすること」は、私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである。 ・自分と異なる考え方や感じ方、少数の立場や意見に対し偏った見方をしたり、人々を隔てをせず、そのような人間の弱さや乗り越えて、自らが正義を愛する心を育てることが不可欠である。	要因 ・仲間との意見の食い違いがあったときに、仲間関係が崩れてしまうのではないかと不安に思う傾向にある。 ・仲間内だけで楽しく過ごすことが、それ以上仲間関係を広げようとは思わない。また、その判断や行動が、周りに与える影響にまで、考えが及ばない。	・「ぼく」が仲のよいしゅんやさんに先に本を貸してしまったり、周りにどう影響するか、また、「ぼく」自身は、どう思うかを考えることで、公正、公平の価値のよさを理解させたい。その上で、児童自身の生活を振り返り、公正、公平な判断ができるようにしたい。
ねらい 誰に対しても分け隔てをしないことが、よりよい仲間関係や公正な社会につながることに気づき、公正、公平な態度で接しようとする力を育てる。	展開の構想 ・「公平」とはどういうことか日常生活から考える。 ・二人のどちらを優先するか「ぼく」の視点でとらえ、葛藤する心情について共感する。 ・迷っていた「ぼく」が、その迷いを断ち切った思いと、仮に断ち切れなかったとき「ぼく」への影響や「ぼく」の思いを十分に想像し、公正、公平に判断することのよさについて理解する。 ・公正、公平な主人公の思いや姿から、自己の生活を振り返り、よりよい仲間関係、集団、自分自身には、公正、公平に判断することが大切であると気付く。	基本発問（〇中心発問） ○「公平」とはどういうことでしょうか。そういう場面が日常生活でもありますか？ ○大の仲よしのしゅんやさんが「みさきさんに内緒で先に貸して」といったとき、「ぼく」はどんなことを考えましたか？ ○「ぼく」はどうして、みさきさんに先に貸すことになったのでしょうか。（役割演技） ○「ぼく」のように、公正、公平に判断しようとする態度で接することができているか、これまでの自分を振り返ってみよう。

令和7年度 岐阜県道徳教育指導資料『豊かな心を育む道徳教育』より

各項目の記載内容

価値の理解と分析

- ①学習指導要領では、取り上げる内容項目をどのような言葉で説明していますか。
- ②教材を読んでみて、内容項目を授業者なりの言葉で表すとどんな言葉になりますか。そして、その自分の捉えや指導要領の説明に照らすと、学級はどのような様子ですか。また、担任としてどんな願いをもっていますか。

実態と要因の分析

- ③内容項目に照らしたときの学級の良さや課題は何ですか。
- ④課題を生み出している要因は何ですか。

教材の分析

- ⑤ ①～④を踏まえると…
●どんなことに気付かせたり、考えさせたりすることができる教材ですか。
●教材のどの場面でどんなことに気付いたり、考えたりすることができますか。
●教材を通してどんな道徳性（判断力、心情、実践意欲と態度）を育てたいですか。
*特に、内容項目に照らして明らかになった学級の課題とその要因から教材を分析する。

ねらいの設定

- ⑥ ①～⑤を踏まえると、自学級ではどんなねらい（どんなことに気付いて、どんな道徳性を育てたいか）になりますか。
*「①～⑥で考えたこと」と「授業の骨格となる⑦⑧」との間に整合性があるかを常に考える。

本時の展開の構想

- ⑦⑧ ①～⑥を踏まえると「展開の構想（ねらいを達成するための展開）」や「基本発問」「中心発問」はどうすべきですか。

本時の展開案の作成へ

*展開案では「教材提示・板書の工夫」や「話し合いの工夫」、「表現活動（動作化・役割演技）の工夫」、「説話の工夫」などをさらに考える。

「道徳科」の指導案（主題構成表）を作成する機会は、それほど多くはありません。しかし、主題構成表の8つの枠組みに沿って考えることで、「指導の意図」を明確にした「道徳科」の授業にすることができます。

毎時間、指導案や主題構成表を作成することは簡単なことではありません。それでも、8つの枠組みを手掛かりに授業構想を考えるだけであれば、30分程度でできます。ぜひ、子供や学級の実態を理解している同僚と一緒に考えてみてください。新たな気付きが生まれ、次の「道徳科」の授業がより楽しみになるはずです。そして、そのような営みから生まれる授業は、指導書を頼りにする授業をはるかに上回る子供たちの道徳性を養う授業（＝「道徳科」の授業の充実）になります。

令和7年度 岐阜県 道徳教育指導資料『豊かな心を育む道徳教育』

「道徳科」の授業の充実に向けては、岐阜県教育委員会が作成している道徳教育指導資料『豊かな心を育む道徳教育』が大変参考になります。下記のURLもしくは二次元コードからアクセスできます。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/486334.pdf>



WEBサイト

令和8年10月、「佐藤一斎學びのひろば」は開館1周年を迎えます。昨年10月の開館以来、市内外から多くの来館者を迎え、佐藤一斎の生涯や思想、さらには恵那市の先人について学ぶ拠点として親しまれています。恵那市が誇る先人・佐藤一斎の教えに触れられるこの施設は、児童・生徒のふるさと学習の場としても大きな可能性を秘めています。今回は、小中学校における活用のポイントをご紹介します。

佐藤一斎の生涯や思想を学ぶことができる体験型施設

佐藤一斎學びのひろばは、江戸後期を代表する儒学者・教育者である佐藤一斎の生涯や思想を学ぶことができる体験型施設です。館内には、佐藤一斎を感じるシアター、『言志四録』の和綴じ本展示、『言志四録』の小径、資料展示コーナー、対話式コトバ診断、親と子で学ぶライブラリーなど、多彩なコーナーが整備されています。また、「恵那の先人三十人展示コーナー」では、市内13地域ゆかりの先人たちの志や功績にも触れることができます。



多彩なコーナーがある展示室

ふるさと学習への活用

第2次恵那市教育大綱・恵那市教育振興基本計画では、「ふるさとを愛し、誇りに思う心を育む」を基本目標の一つとし、郷土の自然や歴史、先人の生き方・業績を学び、理解を深めることで郷土を愛する気持ちを育むよう取り組むこととしています。佐藤一斎學びのひろばには、その学びを支える素材が豊富にあります。

佐藤一斎の思想は『言志四録』としてまとめられ、多くの門弟を育てました。門弟には佐久間象山、渡辺華山、山田方谷などがおり、その思想は吉田松陰や西郷隆盛など幕末から明治維新を支えた人物にも影響を与えたとされています。一人の郷土の先人が日本の歴史に大きな足跡を残したことを学ぶことで、「自分たちの地域の歴史が日本の歴史につながっている」という実感を得ることができます。

また、展示を見るだけでなく、映像視聴やクイズ、対話式コトバ診断など体験的な活動が用意されているため、発達段階に応じた学習が可能です。小学生低学年から中学生まで、それぞれの興味や課題意識に応じて学びを深めることができます。

ふるさと学習の活動の流れ

佐藤一斎學びのひろばでは、小中学校の利用に合わせた学習プログラムを組むことができます。基本的な流れは次のとおりです。

まず、セミナールームで館員から佐藤一斎について説明を受けます。続いて約12分間のシアター映像を視聴し、佐藤一斎の人物像や功績、門弟や社会への影響について理解を深めます。その後は館内を観覧します。対話型コトバ診断で佐藤一斎からの質問に答えたり、絵本コーナーやタッチパネル式のかかるクイズなどを体験したりしながら学習を進めます。希望に応じて館員による案内も可能です。グループごとに話し合ったり教え合ったりしながら観覧すると、学びがさらに深まります。さらに、併設の恵那市中央図書館岩村分館で関連図書に触れたり、岩村の城下町や史跡を散策したりすることで、地域全体を学びのフィールドとして活用することができます。岩村城跡や古い町並み、『言志四録』の碑文などを巡る活動は、郷土への理解をより一層深める機会となります。

「佐藤一斎翁クイズ」に挑戦！

子供たちに特に人気なのが「佐藤一斎翁クイズ」です。問題の答えはすべて展示物やパンフレットの中にあり、展示をよく見ながら解いていく仕組みになっています。初級・中級・上級の3段階が設定されており、全問正解すると次の級へ進むことができます。3段階すべてを制覇すると認定証と記念品が授与されます。楽しみながら主体的に見学できるため、探究的な学習活動としてもおすすめです。



佐藤一斎翁クイズ

図書館の活用で学びに広がり

施設内には恵那市中央図書館岩村分館が併設されています。佐藤一斎や郷土の歴史に関する資料だけでなく、子供向けの図書も整備されており、見学前後の調べ学習にも最適です。展示で学んだ内容をさらに深めたり、自分の課題に応じて資料を探したりすることで、学びが広がります。

お問い合わせ・ご相談

見学方法や学習内容、滞在時間に合わせたプログラム編成などについては、佐藤一斎學びのひろばへお気軽にご相談ください。学校の実態に合わせた活用方法を一緒に検討することができます。展示室は有料エリアですが18歳以下は無料です。市内の小中学校が教育活動で利用する場合は引率者も無料で、セミナールームも無料で利用できます。

郷土が生んだ偉人の志に触れ、地域の歴史や文化を学ぶことは、子供たちのふるさとへの誇りと愛着を育む大切な機会です。ぜひ、佐藤一斎學びのひろばを、ふるさと学習の場として積極的にご活用ください。

施設情報

開館時間 9:00 ~ 17:00
(最終入館16:30)

休館日 水曜日
※祝日の場合は、その直後の平日

住所 恵那市岩村町545番地1

電話 0573-43-2150

電子メール info@issai-manabi.jp

佐藤一斎學びのひろば
WEBサイト





園で育んだ力は小学校へ ～子供の育ちをつなぐ園小連携～



「こども園、保育園(以下、園)」から「小学校」への進学は、子供たちにとって大きな節目です。園と小学校では生活環境や学習スタイルが大きく変化するため、期待を抱く一方で、戸惑いや緊張を感じる子もいます。子供たちが安心して自己を発揮していくためには、園と小学校が互いの教育を理解し合い、連続的に学びの環境を築いていくことが不可欠です。

園小連携のこれから

幼児期における「遊びを通じた総合的な学び」は、小学校以降の「主体的・対話的で深い学び」へとつながる大変重要な土台です。恵那市では、これまで、各校区において連携計画を作成し、子供同士の交流や教職員同士の交流を継続してきました。今後は、園で育まれた資質・能力や「育ちの姿」を小学校での学びにつなげるため、「交流」から一歩進み、教育課程の接続を意識した取組が求められています。

園での遊びは学びの芽

園と小学校の接続を考える上で大切なのが、園でどのような力が育まれているかを知ることです。それらの力はどのように小学校へつながっていくのでしょうか。

こども園・保育園	小学校
例1 「ごっこ遊び」 おままごとで、お皿にどんぐりを「1個ずつ」配る	「算数」 ●算数の「1対1」の対応 ●数の数え方や数量感覚の基礎 ●同じ数ずつ配る考え方
例2 「虫捕りや栽培」 ダンゴムシを観察したり、野菜に毎日水をやったりして、不思議に思ったことを友達と話す。	「生活科・理科」 ●生き物や自然への関心 ●「なぜ?」「調べてみたい」という好奇心 ●探究する態度の基礎
例3 「相談する経験」 クラスの仲間と相談しながら遊びを進める。 自分の思いを伝えたり相手の話を聞いたりする。	「話し合い活動」 ●自分の考えを伝える力 ●相手の考えを聞く力 ●協働的な学びの土台



このように、遊びや生活の中で、子供たちは試したり、考えたり、工夫したりしながら学び、考える力や人と関わる力を育てています。こうした力は、小学校での学びや生活の土台となります。その土台の上に、小学校での新たな学びが積み重ねられているのです。だからこそ、園と小学校の教職員が互いの教育について理解を深めることが重要であり、市では、園と小学校の教職員が共に学び合う研修の機会を設けています。

子供の姿(育ち)の共有

8月25日の園・小合同研修会では、東濃教育事務所教育支援課の松浦亮太課長補佐にご指導いただきました。前半の講話を受けて、後半ではグループワークを行いました。園での育ちを小学校での学びにつなげるために、「今、年長児はどのような力が育っているのか」「小学校ではその力をどの場でどのように生かせそうか」…子供の姿を共有したり、教育内容について語り合ったりするなど、各校区で活発な対話が展開されました。その中で非常に印象的な声が聞こえてきました。



「(子供の育ちを)途切れさせてはいけないよね。小学校に入学したからといって、すべてを1から始めるのではなくて、今、ここまで育っているという姿を我々が知っていて、そこからさらに成長させていくにはどうすればよいか、それを考えていくことが大事なんだな」

この言葉に代表されるように、「つなぐ」を意識したやりとりがたくさん見られました。子供の姿(育ち)を真ん中に置いて、対話を重ねる先生方の姿は、大変心強く、有意義な時間となりました。

子供たちの健やかな成長を願う思いは皆同じです。情報共有や「互いの顔が浮かぶ関係」を少しずつ積み重ねながら、園での育ちを小学校への学びへと確実につないでいくことが大切です。子供たち一人一人が安心して次のステージへ進み、自分らしく成長していけるよう、これからも園と小学校が手を携えて連携を深めていきたいと思っています。



こころと体がいいきと育つ事を願って ～中野方の自然・体を動かす遊びを通して～



1 中野方こども園

中野方こども園は、身近な自然を活かした活動や体を動かす遊びを楽しんでいます。園児数も少なく散歩は全園児で出かけるため、未満児もよく歩くようになります。棚田や笠置神社・ダム方面と散歩コースも様々で、四季折々の自然を感じながら歩き、体力作りに努めています。散歩途中で出会う地域の方とは元気に挨拶を交わし、ちょっとした交流の場になっています。地域行事に参加することや園の行事に地域の方を招待することで関りを深め、郷土愛に繋がる活動も意識して取り組んでいます。



1 親子遠足(地域とのつながり・体を動かす遊び)

数年前から、地域の方がお孫さんの為に自宅に作った遊び場を開放してくださり、遊びに出かけるようになりました。そこには手作りのジップライン・ブランコの他、庭で土手滑りを楽しむことができ、子供たちのお気に入りの場所になりました。遊びの様子は、写真や通信でお知らせしていましたが、実際に保護者も一緒に体験することで、楽しさや地域の方への感謝の気持ちが共感できると思い、今年の親子遠足の場所にしました。「シーソーも作ったし、パワーショベルも置いといたで乗っていいよ!楽しんでって!」と歓迎していただき、親子で体を使った遊びを満喫し、楽しいひと時を過ごすことができました。保護者の方々は「こんなに楽しい遊びをさせてもらえるなんて本当にありがたい。また来たい。」と大好評でした。園までの帰り道、元気に歩く子供たちの姿に「こんなに歩いたのは久しぶり。親は疲れているのに子供たちは元気いっぱいすごい!いつも散歩で歩き慣れているね」と、子供たちの体力に驚いていました。



2 木育(中野方の自然に親しむ)

6月にえーな木育クラブの方々との森遊びに出かけました。歩き慣れた散歩道でも、足を止めて観察すると新たな発見があり、なかなか先に進めないほどに子供たちのワクワクや好奇心のスイッチが入りました。良い香りのする植物・字や絵が書ける葉・遊べる植物等を教えてもらい、お散歩バックいっぱいにお土産を入れて持ち帰りました。通称「もののけの森」に到着すると、5人乗り用と、とても長い1人用のブランコが設置されていました。みんなで交代しながら何度も楽しむことができました。

翌日は、森で調達してきた材料を使って秘密基地作りをしました。のこぎりで木を切ったり材料を運ぶ手伝いをしたりして、みんなの「ニコニコハウス」が完成しました。中でおままごとをしたりおやつを食べたりして、異年齢遊びの場となっています。

中野方は散歩の機会が多いので、今後もネイチャーゲーム等を楽しみながら身近な自然に親しみ、故郷への愛着心も育てていきたいと思っています。



3 集団遊び(人とのつながり・体を動かす遊び)

ドッジボールや鬼ごっこ等、クラスや異年齢で楽しめます。異年齢で遊ぶことで遊びの伝承ができ、思いやりの気持ちも育っています。

年長クラスは6人で通常のドッジボールができないため、「豆ドッジ」というルールで取り組んでいます。「豆ドッジ」に変えてからは、積極的に遊びに参加する姿や、「負けて悔しい!勝りたい」と意欲的に取り組む姿が見られるようになってきました。

少人数だからできないではなく、少人数でもできる工夫や、子供たちがいきいきと遊ぶためにはどうしたらいいか、どんな力を付けたいかを試行錯誤しながら、遊びを見守り提案しています。その中で子供たちが、様々な気持ちを味わい葛藤する場面が多くみられます。保育者は子供同士で思いを言葉で伝え合い、解決できるように寄り添っています。

他園との交流では同年代の友達と遊ぶ経験や、園では体験できない集団遊びが刺激となっています。サッカー教室は、いいなか(飯地・中野方・笠置)交流として、3園で賑やかに実施しています。集団遊びが難しい小規模園の課題を他園との交流の機会に、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるよう取り組んでいます。





- ① 働いている学校・園
- ② 出身国のよいところ
- ③ 日本のよいところ
- ④一緒に働いている先生方へのメッセージ

名前：ダンロップ アンドリュー リック

- ① 恵那南中学校、大井小学校、三郷小学校
- ② オーストラリアは自然が豊かでコーヒーが有名です。オーストラリア人は質の高いコーヒーを好むため、スターバックスなどのチェーン店の数が少なく、豆焙煎をする個人経営カフェが一般的です。機会がありましたら、ぜひフラットホワイトというオーストラリアのコーヒーを召し上がってください。
- ③ 日本のいいところは歴史が感じられるところです。どこに行っても歴史とともに、歩んでいるようです。地名、人名をはじめとして、日本の歴史は深く、もっと知るために古典を熱心に勉強しています。
- ④ お体に気を付けて働きましょう。たまに自分にご褒美をあげるとよいと思います。

出身 オーストラリア
クイーンズランド州

名前：ロメロ マテオ ニコラス

- ① 恵那南中学校、東野小学校、岩邑小学校、上矢作小学校
- ② 私にとって、特に思い浮かぶのは二つです。一つ目は食べ物です。ピザトーストやハンバーガーだけではなく、様々な文化が混ざり合った多様な料理があります。二つ目は、空です。アメリカ南西部の空は、とても濃い青色で、高い所に雲が浮かんでいます。砂漠で起こる雷雨もきれいです。
- ③ 日本の文化は、世界の他の国にはない特別なものです。そのユニークさが、多くの人を日本へ引き付けています。日本についてもっと知りたい、もっといろいろな場所を見たいと思う人がたくさんいます。
- ④ いつもよくお願いします。ぜひ気軽に話しかけてください。私は毎日、日本語を勉強しているので、日本語で話してくれてももちろん大丈夫です。

出身 アメリカ
ニューメキシコ州 サンタフェ

名前：ミッチェル アリエル リアン

- ① 恵那東中学校、武並小学校、大井第二小学校
- ② 私の母国の一番良いところは食べ物と美しい場所です。
- ③ 日本の電車はかっこいいし、人々は親切です。
- ④ いつもありがとうございます。皆さんは優しくて面白くて楽しい人たちです。今年も一緒にがんばります。

出身 アメリカ
ケンタッキー州

名前：ジョアン オブリアル

- ① 城ヶ丘こども園、大井こども園、おさしま二葉こども園、やまびここども園、東野こども園、みさとこども園、武並こども園、中野方こども園、飯地こども園、岩村こども園、山岡こども園、明智こども園、串原こども園、上矢作こども園
- ② 私たちの町には美しい花がたくさんあり、花の祭りや山脈があります。ラ・トリニダードは気候が涼しく過ごしやすいため、フィリピンの夏の首都と呼ばれています。
- ③ 日本の各地域の食べ物とさまざまな文化。
- ④ 温かく迎えていただき、ありがとうございます。みんなで一緒に英語を楽しみましょう。

出身 フィリピン
ラトリニダード

名前：ワトリング ライアン ジェイミー

- ① 恵那東中学校、山岡小学校、明智小学校、串原小学校
- ② イギリスの食べ物はとても美味しいです。一番美味しいものは「フィッシュアンドチップス」です。イギリスの歴史も興味深いです。たくさんの歴史的な綺麗なお城があります。
- ③ 和食が好きです。一番好きな和食は味噌カツです。日本の山も好きです。百名山に登ってみたいです。
- ④一緒に教えることを楽しみたいです。

出身 イギリス
ハンプシャー州

名前：コルテス アイザック ルーベン

- ① 恵那西中学校、中野方小学校、長島小学校
- ② 私の故郷で一番好きなのは、食べ物とスケートボードの文化です。
- ③ 私が日本について特に好きなのは、その歴史と食べ物です。日本の歴史を学ぶのが大好きなのは、歴史上の出来事が実際に起きた場所を訪れることができるからです。これほど多くの歴史的建造物が現存し、一般に公開されているというのは、本当にユニークなことだと思います。
- ④ また皆様と一緒にできるのを楽しみにしています。今年も一緒に英語を教えて、楽しい一年にしましょう。

出身 アメリカ合衆国
カリフォルニア州 サクラメント

名前：ミラー ダグラス ルイス

- ① 恵那西中学校、恵那北中学校、恵那北小学校、飯地小学校
- ② 美しいビーチや山々、マウンテンバイク、キルトを着用しなければならぬこと。
- ③ 夏祭りとピザまん。新しい言語を学ぶのは面白いです。訪れるべき素晴らしい場所があり、海も温かいです。
- ④ 素敵な先生方でいてくださり、ありがとうございます。クラスはいつも楽しいです。

出身 スコットランド
マレー州 エルギン

名前：ダン オベロ

- ① 城ヶ丘こども園、大井こども園、おさしま二葉こども園、やまびここども園、東野こども園、みさとこども園、武並こども園、中野方こども園、飯地こども園、岩村こども園、山岡こども園、明智こども園、串原こども園、上矢作こども園
- ② ダバオ市には美しいビーチがたくさんあり、雄大で美しいアボ山を眺めることができます。
- ③ おいしい食べ物と美しい自然。
- ④ いつも笑顔で優しく接してくださり、ありがとうございます。

出身 フィリピン
ダバオ市

温故知新

私を救ってくれた先輩の言葉

恵那北中学校
校長 勝川 秀樹

教員生活37年。そのうち24年間を恵那で勤務してきました。若手時代からミドルリーダー時代、そして管理職時代まで、教員人生の多くを恵那で過ごしてきました。今振り返ると、どの時代も周囲の方々に支えられて歩んできたことを強く感じます。同世代の仲間、諸先輩方、そして次世代を担う若者たち。多くの方々との出会いに恵まれ、学ばせていただいた教員生活でした。私は本当に恵まれていたと思います。

私の教育理念は、「できることを精一杯やる」「今の自分より少し上を目指す」です。この考え方は、2校目として赴任した明智中学校で先輩からいただいた言葉が原点です。当時の私は、前任校での経験を生かそうと意気込んでいました。しかし現実と思うようにいかず、理想と現実の違いに苛立ち、空回りする毎日でした。そんな時、先輩が「できることを精一杯やればいい。その積み重ねが、今より少し上の自分にしてくれるから」と声をかけてくださいました。その言葉に救われました。

そして私は、生徒の実態を見ようとせず、自分の理想ばかりを追い求めていたことに気付かされました。それ以来、生徒一人一人を丁寧に見つめ、お互いが「できることを精一杯やる」関係を築くことの大切さを学んできました。若い頃に教えていただいたこの姿勢は、今も私の教育理念の根幹です。そして、校長として教職員や生徒に語りかける言葉の源流にもなっています。

「できることを精一杯やる」

これからもこの言葉を胸に、今の自分より少し上を目指しながら、一步一步歩み続けていきたいと思っています。